5/18 土 読

「教義」刷り込みの恐怖

東海地方 統一協会元信者が語る

クローズアップ

かつて統一協会の信者で約1千万円の被害を受けた50代の女性が、高額献金などを「しなければ先祖が救われない」と思い込まされる「教義」刷り込みの恐怖を語りました。思考の自由を奪うマインドコントロールの過程を振り返ります。（玉田文子）

東海地方に住むAさんは2000年代中ごろから統一協会に関わり、4年間で献金や水晶購入などに約1千万円を支払いました。その後、自ら関係を断ち、弁護士を通して被害額の9割を返金させたといいます。当時のメモを頼りにAさんが記憶をたどります。

ママ友の誘い

きっかけはママ友の誘いでした。風水に興味があったAさんは、当時小学生だった息子と同じスポーツクラブの母親に誘われ水晶などを売る店を訪れます。

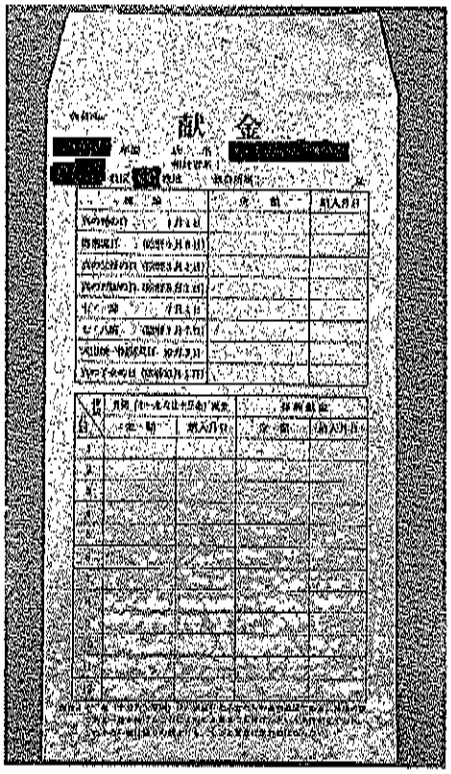
店員から「風水を勉強する場所がある」と誘われ近くのマンションの一室に行くよう指示され、7万円で「授業」を受けました。そこは統一協会の教義を教えるビデオセンターでしたが、Aさんは統一協会だと明かされないまま通うようになり、「霊界の存在」や「先祖の因縁」などを刷り込まれていきました。

数カ月後、ママ友から今度は風水関係の即売会に誘われ参加します。家系図に興味があったAさんは詳しい先生が来ているといわれ戸籍を持参。店長を名乗る人物から「この家系には女の人の失敗がある。このままいくと娘がお金のために体を売るようなこともする。悪い因縁を断ち切るため300万円の水晶製の鳳凰（ほうおう）の置物を買いなさい」と言われます。

高額のため悩むAさんに「今決断しないとだめ」「これだけ血を超えて過ちを犯している家系は手に負えない」と5時間にわたる説得がありました。恐怖と不安でいっぱいになったAさんは、「先祖を助けるのは私の使命」と考え購入しました。

即売会から約1年後、今度は高額献金を迫られます。金額はAさんの年齢に10万円をかけたもの。300万円を超え、一度は断りましたが、「地獄にいる先祖が苦しんでいてあなたが踏ん張れば先祖も救われる」「やらなければ災いがくる」などと言われ、恐怖と不安から献金を決意。親から理由を偽って数百万円を借りるなどして支払いました。

「霊界」「先祖の因縁」 高額献金など1000万円



Aさんが使用していた献金袋。月例献金の他に「貴の神の日」「月1日」などと書かれています。（画像の一部を加工）

強迫観念に…

それから半年後、ビデオセンターで、実は統一協会だったことが明かされます。宗教ではないことを何度も確認してきたAさん。非難しても、「家系が家系だから感謝して受け入れなければならない」などといわれます。「私が受け入れなければ悲惨になる」「私の代で解決するしかない」と強迫観念にとらわれ、「涙が止まりませんでした」。

その後も約13万円の「新生トレーニング」受講、160万円の置物購入など被害が続き、献金額は計1000万円近くに。「統一協会から離れると地獄に落ちる」と言われ激しい恐怖心との葛藤がありましたが、さらなる献金を求められ、自ら関わりを絶ったといいます。

一連の出来事は夫の単身赴任中におき、今なお家族のだれにも伝えていません。

Aさんは、スタッフの大歓迎での迎え入れや疑似家族のような関係が「居心地よく楽園のようだった」と振り返ります。その一方、「先祖救済のため」などの思考に染められ、高額献金が自分の意思であるかのように追い詰められるマインドコントロールの恐ろしさを感じています。

脱会後も、自分の考えか「教義」かが分からなくなり苦悩することも。専門家や支援者につながり、心理学も学び、やっと「立ち直ることができました」。

「統一協会は信者を自分たちの都合のいい人間につくりかえてしまいます。金銭的な被害だけでなく、マインドコントロールに苦しむ当事者や家族もいます。政府は被害者を本当に救済できるシステムをつくってほしい」